

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	すぎの子			
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日 ～ 令和6年12月6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11世帯	(回答者数)	11世帯
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日 ～ 令和6年12月6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	いつでも相談できる体制を取っていること	月に1回のすぎの子カフェやLINEや連絡帳、電話、送迎時などでいつでも相談できるようにしている。	心理職を月に1回配置し、2 カ月先まで来所予定を伝え、より専門的な相談ができるようにしている。
2	子どものことを十分理解し、子どもの特性に合わせて支援をおこなっていること	子どもの様子によって、その時に適している職員をマッチングさせ、悩みや困り感等を聞く環境を作り、その後も環境設定をおこなうようにしている。	職員体制の充実をおこなうようにしている。
3	学校などの関係機関と連携して支援をおこなう体制ができていること	担任の先生と送迎時やその他の時に、子どもの様子を共有し、学校訪問や関係機関会議をおこない、子ども中心の連携をとっている。	毎年1回以上の関係機関連携の情報共有の場をつくりおこなっているが、さらに学校での様子を見に行く訪問を全ての利用児に行う取り組みを考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の人数	基準の人員配置にプラスして児童指導員等を配置しているが、不登校や登校渋りがある利用児の増加に伴い、学校への登校支援や丁寧な関わりをおこなうのに、職員の人数が必要になっている。	求人をおこなうと共に今いる職員の知識や対応力の向上をおこなう為の研修が必要。
2	保護者同士の交流の機会が少ないこと	月に1回すぎの子カフェを開催しているが、仕事をしている親も多く、参加者がほぼ居ないので交流まで出来ていない状況がある。	夏休みの土曜日などに親子ふれあい活動等を取り入れ、保護者同士が交流する機会を作ったり、学習会などでも保護者同士が交流する機会を作っていく。
3	地域の他の子ども達との活動の機会がないこと	事業所がある地域に他の事業所さんや子ども達がいらない為、交流する機会が持てない状況。	連携を取っている他事業所さんとの交流会をおこなうなど工夫をしていく。